

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®] 認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 稲畑ファインテック株式会社

住所：大阪市中央区南船場1-15-14

氏名： 熊谷史郎 ⑩

法人番号：2120001074665

(共同申請者) 津名漁業協同組合佐野支所

住所：淡路市佐野2029-2

氏名：理事 仲野英幸 ⑩

法人番号：2140005020127

(共同申請者) 株式会社BLUABLE

住所：兵庫県宝塚市社町20番7号

氏名： 魚谷貴秀 ⑩

法人番号：6140001136138

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	淡路島わかめブルーカーボン地域創生プロジェクト

プロジェクト区分 (複数選択可)	人工基盤 吸収源の新たな創出 水産養殖を含む
プロジェクト情報	本プロジェクトの対象海域は、兵庫県淡路市佐野地域の沿岸海域です。 淡路島の海は栄養分が豊富で波が穏やかであり、温暖な気候に恵まれています。その環境で育つ「淡路島産のわかめ」は、他の産地と比べて適度な厚みともっちりとした柔らかな食感を持ち、磯臭さやえぐみが少なく、湯戻し後の鮮やかなグリーン色が特徴です。 しかし、この優れた特徴を持つわかめであるにもかかわらず、近年では漁業者の高齢化や担い手不足の影響を受け、淡路市佐野地区でもわかめ養殖の継続が難しくなりつつありました。かつて淡路ではいかなご漁が盛んでしたが、現在では漁獲量が減少し、漁師の収入も大きく落ち込んでいます。 本プロジェクトは、「地域の漁業を守り、未来へつなげる」という津名漁協佐野支所の漁師たちの想いから、新たな挑戦としてスタートしました。近年、津名漁協佐野支所ではワカメの養殖量が減っており、漁師たちは地域の水産業がこのままでは衰退してしまうという危機感を抱いていました。そこで、津名漁協佐野支所、稲畑ファインテック、柴宇淡路食彩の3者が連携し、わかめ養殖を通じて漁業者の安定収入の確保と新たな水産資源の開発に取り組み、漁業の未来を切り開こうとしています。 他の産地では、漁業者が養殖から加工、出荷までを一貫して行うことが多いのに対し、淡路市佐野地区では、海上作業を漁業者が担当し、加工は地元水産加工業者の柴宇淡路食彩、種苗生産などの試験研究および販売を稲畑ファインテックが担う「三位一体トライアングル」を形成しています。 これにより、燃油価格や資材・物価の高騰などの課題に対応しながら、地域の水産業と経済への深刻な影響を乗り越え、持続可能なわかめ養殖の維持を目指しています。 また、気候変動や自然災害によるわかめ資源の消失は、CO2吸収源である藻場の減少を招くだけでなく、わかめ漁業の衰退や漁業基盤の崩壊につながる可能性があります。そのため、本プロジェクトでは、淡路市佐野地区でのわかめ養殖活動を進めるとともに、気候変動により種が減少した場合に備えた種苗の保管も実施します。 さらに、2017年に廃校となった小学校を活用し、地域の小学生や住民、観光客が楽しみながら学べる「淡路島の海の恵み」展示室を2025年1月に開設しました。これにより、淡路の海への理解を深めるとともに、環境保全の重要性を考える機会を提供し、SDGsの普及促進にも貢献しています。
クレジット取得理由	淡路島産わかめの認知度を向上させること、気候変動緩和策への関心を高めていくための活動を継続的に実施するためにはクレジット取得が必要である。
クレジット取得後の計画や見通し	得られたクレジットはCO2吸収源の維持・拡大に必要な本プロジェクトの活動を継続して行うための活動資金に加える。
申請対象期間に実施した活動の概要	① わかめ養殖によるCO2吸収 2019年～現在 毎年72km分のロープを張りCO2の吸収源となるわかめの養殖を実施した。 ② わかめ種苗の培養生産・育苗管理 2019年～現在 品質と収量の安定を図るため、わかめ種苗の培養・育苗管理に取り組み、エンドユーザ様のニーズに適合したわかめの安定的な生産を実施した。 ③ 海洋教育活動 2025年1月～現在 廃校となった佐野小を活用して、「淡路島の海の恵み」展示室を開設した。

申請対象期間に実施した活動の概要	津名東小の5年生が訪れ、シラスに混じった小さなタコやタツノオトシゴなどを選別する「ちりめんモンスター探し」や、わかめの葉と茎とを分ける「芯抜き」の作業、鮮魚を使う料理教室などの体験を実施した。
プロジェクト実施開始日	2019年～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 ワカメ場 【構成種】 ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年05月01日～2025年04月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 24768(m) 【ロープ長の算定根拠】 ①養殖ロープの長さ：8.6m（ロープは10mであるが種糸をさしている長さで計算） ②1枠ごとの養殖ロープの本数：18本 ③1セットごとの枠数：40個 ④早採れワカメは4セット分 ①×②×③×④＝24,768 (m) ※ロープ長は、セットの長さを記載している。 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【ロープ長の資料】 根拠資料.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 121.3(t) 【水揚量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.0048975t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした早採れ分のロープ長：24,768 (m) ①×②＝121.30128 ※仮根・メカブ以外を収穫している。水揚げ量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【水揚量に関する資料】 根拠資料.pdf 【残置量】 35.66592(t) 【残置量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.00144t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした早採れ分のロープ長：24,768 (m) ①×②＝35.665920 ※仮根・メカブ部分を残置している。残置量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【残置量に関する資料】 根拠資料.pdf

項目1	④吸収係数	【含水率】 89.85(%) 【含水率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【含水率に関する資料】 根拠資料.pdf 【P/B比】 1.4 【P/B比の算定根拠】 文献値（水産庁（2021）第3版磯焼け対策ガイドライン）を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	---

項目1	④吸収係数	【炭素含有率】 27.92(%) 【炭素含有率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【炭素含有率に関する資料】 根拠資料.pdf 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目1	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2-2 【算定結果（吸収量）】 1.119(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 90% (ロープの長さ：24768(m)×評価：90%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.000045217×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 1.00(h) 【出力】 95.00(kW) 【燃料の種類】 ガソリン 【CO2排出量】 0.032(t-CO2)

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【C02吸収量】 0(t-C02) (入力値0) 【設定した根拠】 ワカメの養殖は、毎年秋の種付けから始まり、翌年の春に収穫する単年度のプロジェクトである。したがって、本申請におけるベースラインC02吸収量は0とした 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.925(t-C02)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 ワカメ場 【構成種】 ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年05月01日～2025年04月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 37152(m) 【ロープ長の算定根拠】 ①養殖ロープの長さ：8.6m（ロープは10mであるが種糸をさしている長さで計算 ②1枠ごとの養殖ロープの本数：18本 ③1セットごとの枠数：40個 ④本取り分ワカメは6セット分 ①×②×③×④＝37,152 (m) ※ロープ長は、セットの長さを記載している。 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【ロープ長の資料】 根拠資料.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 391.11(t) 【水揚量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.0105283333t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした本取り分のロープ長：37,152 (m) ①×②＝391.1148639998 (t) 仮根・メカブ以外を収穫している。水揚げ量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【水揚量に関する資料】 根拠資料.pdf 【残置量】 109.22688(t) 【残置量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.00294t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした本取り分のロープ長：37,152 (m) ①×②＝109.226880 (t) 仮根・メカブ部分を残置している。残置量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【残置量に関する資料】 根拠資料.pdf

項目2	④吸収係数	【含水率】 89.85(%) 【含水率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【含水率に関する資料】 根拠資料.pdf 【P/B比】 1.4 【P/B比の算定根拠】 文献値（水産庁（2021）第3版磯焼け対策ガイドライン）を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	---

項目2	④吸収係数	【炭素含有率】 27.92(%) 【炭素含有率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【炭素含有率に関する資料】 根拠資料.pdf 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目2	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2-2 【算定結果（吸収量）】 3.547(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 90% (ロープの長さ：37152(m)×評価：90%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.0000954988×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 1.00(h) 【出力】 95.00(kW) 【燃料の種類】 ガソリン 【CO2排出量】 0.032(t-CO2)

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【C02吸収量】 0(t-C02) (入力値0) 【設定した根拠】 ワカメの養殖は、毎年秋の種付けから始まり、翌年の春に収穫する単年度のプロジェクトである。したがって、本申請におけるベースラインC02吸収量は0とした 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	3.001(t-C02)

項目3	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 ワカメ場 【構成種】 ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2023年05月01日～2024年04月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 18576(m) 【ロープ長の算定根拠】 ①養殖ロープの長さ：8.6m（ロープは10mであるが種糸をさしている長さで計算） ②1枠ごとの養殖ロープの本数：18本 ③1セットごとの枠数：40個 ④早採れワカメは3セット分 $① \times ② \times ③ \times ④ = 18,576 \text{ (m)}$ ※ロープ長は、セットの長さを記載している。 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【ロープ長の資料】 根拠資料.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 90.97(t) 【水揚量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.0048975t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした早採れ分のロープ長：18,576（m） ①×②=90.97596 ※仮根・メカブ以外を収穫している。水揚げ量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【水揚量に関する資料】 根拠資料.pdf 【残置量】 26.74944(t) 【残置量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.00144t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした早採れ分のロープ長：18,576（m） ①×②=26.749440 ※仮根・メカブ部分を残置している。残置量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【残置量に関する資料】 根拠資料.pdf

項目3	④吸収係数	【含水率】 89.85(%) 【含水率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【含水率に関する資料】 根拠資料.pdf 【P/B比】 1.4 【P/B比の算定根拠】 文献値（水産庁（2021）第3版磯焼け対策ガイドライン）を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	---

項目3	④吸収係数	【炭素含有率】 27.92(%) 【炭素含有率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【炭素含有率に関する資料】 根拠資料.pdf 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目3	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2-2 【算定結果（吸収量）】 0.839(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 90% (ロープの長さ：18576(m)×評価：90%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.0000452154×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【C02吸収量】 0(t-C02) (入力値0) 【設定した根拠】 ワカメの養殖は、毎年秋の種付けから始まり、翌年の春に収穫する単年度のプロジェクトである。したがって、本申請におけるベースラインC02吸収量は0とした 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.718(t-C02)

項目4	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 ワカメ場 【構成種】 ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2023年05月01日～2024年04月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 43344(m) 【ロープ長の算定根拠】 ①養殖ロープの長さ：8.6m（ロープは10mであるが種糸をさしている長さで計算 ②1枠ごとの養殖ロープの本数：18本 ③1セットごとの枠数：40個 ④本取り分ワカメは7セット分 ①×②×③×④＝43,344 (m) ※ロープ長は、セットの長さを記載している。 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【ロープ長の資料】 根拠資料.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 456.34(t) 【水揚量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.0105283333t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした本取り分のロープ長：43,344 (m) ①×②＝456.340079998 (t) 仮根・メカブ以外を収穫している。水揚げ量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【水揚量に関する資料】 根拠資料.pdf 【残置量】 127.43136(t) 【残置量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.00294t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした本取り分のロープ長：43,344 (m) ①×②＝127.431360 (t) 仮根・メカブ部分を残置している。残置量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【残置量に関する資料】 根拠資料.pdf

項目4	④吸収係数	【含水率】 89.85(%) 【含水率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【含水率に関する資料】 根拠資料.pdf 【P/B比】 1.4 【P/B比の算定根拠】 文献値（水産庁（2021）第3版磯焼け対策ガイドライン）を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	---

項目4	④吸収係数	【炭素含有率】 27.92(%) 【炭素含有率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【炭素含有率に関する資料】 根拠資料.pdf 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目4	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2-2 【算定結果（吸収量）】 4.139(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 90% (ロープの長さ：43344(m)×評価：90%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.0000955051×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目4	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【C02吸収量】 0(t-C02) (入力値0) 【設定した根拠】 ワカメの養殖は、毎年秋の種付けから始まり、翌年の春に収穫する単年度のプロジェクトである。したがって、本申請におけるベースラインC02吸収量は0とした 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	3.539(t-C02)

項目5	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 ワカメ場 【構成種】 ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2022年05月01日～2023年04月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 18576(m) 【ロープ長の算定根拠】 ①養殖ロープの長さ：8.6m（ロープは10mであるが種糸をさしている長さで計算） ②1枠ごとの養殖ロープの本数：18本 ③1セットごとの枠数：40個 ④早採れワカメは3セット分 ①×②×③×④＝18,576 (m) ※ロープ長は、セットの長さを記載している。 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【ロープ長の資料】 根拠資料.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 90.97(t) 【水揚量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.0048975t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした早採れ分のロープ長：18,576 (m) ①×②＝90.97596 ※仮根・メカブ以外を収穫している。水揚げ量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【水揚量に関する資料】 根拠資料.pdf 【残置量】 26.74944(t) 【残置量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.00144t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした早採れ分のロープ長：18,576 (m) ①×②＝26.749440 ※仮根・メカブ部分を残置している。残置量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【残置量に関する資料】 根拠資料.pdf

項目5	④吸収係数	【含水率】 89.85(%) 【含水率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【含水率に関する資料】 根拠資料.pdf 【P/B比】 1.4 【P/B比の算定根拠】 文献値(水産庁(2021)第3版磯焼け対策ガイドライン)を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	---

項目5	④吸収係数	【炭素含有率】 27.92(%) 【炭素含有率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【炭素含有率に関する資料】 根拠資料.pdf 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目5	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2-2 【算定結果（吸収量）】 0.839(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 90% (ロープの長さ：18576(m)×評価：90%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.0000452154×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目5	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【C02吸収量】 0(t-C02) (入力値0) 【設定した根拠】 ワカメの養殖は、毎年秋の種付けから始まり、翌年の春に収穫する単年度のプロジェクトである。したがって、本申請におけるベースラインC02吸収量は0とした 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.718(t-C02)

項目6	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2022年05月01日～2023年04月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 43344(m) 【ロープ長の算定根拠】 ①養殖ロープの長さ：8.6m（ロープは10mであるが種糸をさしている長さで計算 ②1枠ごとの養殖ロープの本数：18本 ③1セットごとの枠数：40個 ④本取り分ワカメは7セット分 ①×②×③×④＝43,344 (m) ※ロープ長は、セットの長さを記載している。 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 ※ロープ長は、セットの長さを記載している。 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【ロープ長の資料】 根拠資料.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 456.34(t) 【水揚量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.0105283333t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした本取り分のロープ長：43,344 (m) ①×②＝456.3400785552 (t) 仮根・メカブ以外を収穫している。水揚げ量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【水揚量に関する資料】 根拠資料.pdf 【残置量】 127.43136(t) 【残置量の算定根拠】 ①ロープ長1mあたりの湿重量：0.00294t/m（令和6年度計測値を利用） ②水揚げした本取り分のロープ長：43,344 (m) ①×②＝127.431360 (t) 仮根・メカブ部分を残置している。残置量は、一部収穫し、その重量から算出している。詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【残置量に関する資料】 根拠資料.pdf

項目6	④吸収係数	【含水率】 89.85(%) 【含水率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【含水率に関する資料】 根拠資料.pdf 【P/B比】 1.4 【P/B比の算定根拠】 文献値(水産庁(2021)第3版磯焼け対策ガイドライン)を参照 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	---

項目6	④吸収係数	【炭素含有率】 27.92(%) 【炭素含有率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、「根拠資料.pdf」を参照 【炭素含有率に関する資料】 根拠資料.pdf 【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし 【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし 【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし
-----	-------	--

項目6	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2-2 【算定結果（吸収量）】 4.139(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 90% (ロープの長さ：43344(m)×評価：90%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：0.0000955051×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目6	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【C02吸収量】 0(t-C02) (入力値0) 【設定した根拠】 ワカメの養殖は、毎年秋の種付けから始まり、翌年の春に収穫する単年度のプロジェクトである。したがって、本申請におけるベースラインC02吸収量は0とした 【資料】 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	3.539(t-C02)

合計のクレジット認証対象の吸収量	12.4 t
------------------	--------